

PA3150	教育相談及び生徒指導・進路指導		
担当教員	味形 修	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

- ①『必携:生徒指導と教育相談』渡辺弥生・西山久子編著(北樹出版) 2021 年度～
 ②『生徒指導提要』(教育図書株式会社)2021 年度～ ①②セット配本

科目概要

小学校・中学校・高等学校における生徒指導と教育相談、さらに進路指導とキャリア教育の意義や目的を理解する。学校における実践をイメージに描き、一人一人の子どもの「自立」を促し、進路選択や人生設計のための支援について学習する。

学校には様々な課題が散逸している。学校や地域独自の課題を含め学習(教科)指導と両輪をなす生徒指導を軸に、学級経営・ホームルーム経営、問題行動や不登校の未然防止から解決とケアなど、学校教育活動すべてが対象となる。教員の指導内容や方法、技法を理解する。

また、指導の心構えを確認するとともに自分自身を振り返ることの重要性を認識する。学校や家庭、地域、関連諸機関との連携について理解を深める。そして教員の学習指導に匹敵する生徒指導の重要な役割について認識を高める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 学校教育全体の活動における生徒指導・進路指導・教育相談の位置づけを理解する。
- ② 生徒指導・進路指導・教育相談の意義や目的、課題を理解し、相互の関係を知る。
- ③ 「自己指導能力」の育成と「自立」への理解を深め、指導の重要性を知る。
- ④ 教育課程内外において生徒指導・進路指導・教育相談の役割を理解する。
- ⑤ カウンセリング・マインドをはじめとする教員の指導に臨む姿勢、心構えを知り、自分自身を見つめなおす。
- ⑥ 児童生徒の発達心理への理解を深める。
- ⑦ 児童生徒の発達段階を踏まえた指導のポイントや課題を知り、実践イメージを描く。
- ⑧ キャリア教育の取組を児童生徒の発達段階に応じた理解を深め、進路指導との関係も理解する。
- ⑨ 学校内外の協働による連携・協力の体制づくりと円滑な連携のための課題を知る。

■ 科目の学習要点事項

- ① 学校教育の生徒指導・進路指導・教育相談の意義や目的、課題について、各々の役割
- ② 児童生徒の成長発達段階の理解と健全な心身の発達を促す成長
- ③ 「自己指導能力」の育成の必要性、「自立」の理解
- ④ 生徒指導と教育課程の関係、生徒指導が特に留意する3つの点(3機能)の理解と取組
- ⑤ 生徒指導や教育相談のアセスメント、カウンセリングの技法
- ⑥ 学級経営、ホームルーム経営とそれらの活動
- ⑦ 進路指導とキャリア教育の関係
- ⑧ 学校・家庭・地域・関係諸機関との連携

参考文献

- ①『生徒指導リーフ』シリーズ(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター)
数ある中から、〈リーフ1, 2, 3, 6,8,9,13, 14, 18〉など
- ②『生徒指導 10 の原理 100 の原則』堀祐嗣著(学事出版、2011)
- ③『学級経営 10 の原理 100 の原則』堀祐嗣著(学事出版、2011)
- ④『学校って何だろう』荻谷剛彦著(ちくま文庫、2005)
- ⑤『教師の資質』諸富祥彦著(朝日新書、2013)

評価基準

■レポート評価

- ・課題が求めていることを把握し理解したこと踏まえたまとめであること。教員の指導をイメージし、指導に臨む姿勢を理解していること。
- ・学校教育に求められている連携・協力体制の課題、「開かれた学校・開かれたカリキュラム」への認識などについて理解したことがわかる記述であること。
- ・主観的な判断、考えに偏った内容は不合格とする。テキストや参考文献などの内容を適切に引用しても構わないが、自分の考えを補足するものであること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。
- ・他人のレポートの内容に酷似していると判断できる場合は不合格とする。あくまでも自分の意見、考えをまとめること。

■科目終了試験評価

- ・レポート作成での自学自習をしっかり行い、上述した学習要点の達成度、科目修了試験の出題の趣旨を理解して解答しているかを判断、判定する。

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著、2019(北樹出版) 2020 年度～

科目概要

- (1)知的障害児者の認知・行動面に影響する心理的特性に関し学ぶ。
- (2)個別の指導計画を立案する上での重要な資料となる、主要な知能検査・発達検査の解釈の基礎について、実践的な演習を交えて学ぶ。
- (3)知的障害児者のキャリア支援、生涯学習支援に関し学ぶ
- (4)上記の知識を基にして、校内委員会のシミュレーション演習を行い、個別の指導計画を作成し、その意義について学ぶ(通信では演習なし)
- (5)特別支援学校における知的障害児の教育課程に関し学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 知的障害の定義、分類に関し理解し、同障害のある児童・生徒の教育的支援の基礎を学ぶこと
2. 主な知能・発達検査によるアセスメントに関し学び、個別の指導計画との関係を理解すること
3. 学齢期後に向けたキャリア支援、生涯学習支援の内容、支援方法に関し、理解すること
4. 特別支援学校における知的障害児の教育課程(各教科を合わせた指導等)に関し理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 知的障害の定義、分類、支援ニーズに関する理解
2. 病理型の代表としてのダウン症と生理型の軽度知的障害の特性と指導に関する理解
3. WISC4 等、アセスメントに関する学習 (1)検査の基本的理解、(2)個別の指導計画への利用
4. 知的障害者の就労支援に関する理解(課題分析・職務分析・ナチュラルサポート等)
5. 知的障害児者の生涯学習の現状と必要性に関する理解
6. 知的障害を対象とした特別支援学校、特別支援学級の教育課程に関する理解

参考文献

『特別支援教育の理論と実践1・概論・アセスメント』上野一彦・牟田悦子他(金剛出版)
『実践に生きる特別支援教育』島田博祐・星山麻木編(明星大学出版部)

評価基準

■ レポート評価

レポートテーマに関しテキストを熟読して理解し、習得した知識を概略的にまとめ、自己本位の知見に陥ることなく記述することができているか。

■ 科目終了試験評価

レポートをまとめたことで習得した知識を、試験課題を通じ、適切に反映することができているか。

使用テキスト	配本年度
--------	------

『肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介 編著(財団法人放送大学教育振興会 2010) 2014 年度
『改訂版 肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介 編著(財団法人放送大学教育振興会 2014) 2015 年度～2020 年度
『新訂 肢体不自由児の教育』川間健之介、長沼 俊夫 編著(財団法人放送大学教育振興会) 2021 年度～

科目概要

肢体不自由児の生理・病理・心理の特性から、肢体不自由児のための特別支援学校の教育課程、指導法まで幅広く学び、肢体不自由児教育についての基本的な理解を図る。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

肢体不自由児教育の現状と課題について基本的・基礎的な理解をする。

■ 科目の学習要点事項

1. 肢体不自由児の生理・病理・心理の特性
2. 主に脳性まひについて、その障害特性と発達
3. 肢体不自由児のための特別支援学校の教育課程の特徴
4. 身体の動きやコミュニケーションの指導
5. 重度重複児童生徒の自立活動の指導と配慮事項
6. 肢体不自由児への教科指導について
7. 個別の教育支援計画や個別の指導計画と保護者や関係機関との連携

参考文献

- ① 『障害の重い子どもの指導 Q&A』全国特別支援学校肢体不自由教育校長会編(ジエース教育新社 2011 年)
- ② 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』(開隆堂 2018 年)
- ③ 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』(金芳堂 2015 年)

評価基準

■ レポート評価

- ・テキスト等を熟読している記述かどうか。
- ・わかりやすい記述であるかどうか。
- ・自分の言葉で記述しているかどうか。
- ・内容的には、「レポート課題の解説」に示した観点に沿っているかどうか。

■ 科目終了試験

レポート課題作成のために学習した事柄をしっかりと理解し覚えていれば解ける問題である。
テキストおよび参考文献から学ぶと同時に、肢体不自由児と触れ合う経験が理解を深めるもっとも適切な方法である。

『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携』

全国特別支援学校病弱教育校長会編(ジアース教育新社)

2021 年度～

科目概要

病弱の子どもの教育は、あまり知られていないことが多く、病気の子どもや保護者だけで悩んでいることがあります。教育の場である特別支援学校(病弱)、病弱特別支援学級、通級による指導等病弱児に係わる教育の場と教育形態等について理解しておく必要があります。そこでこの科目では、病弱児への支援として「我が国の学校教育システムとしての多様な学びの場」「ICT 機器等の活用」「特別支援学校学習指導要領改訂の概要」「病気の状態に応じた指導の工夫」「主な病気の概要」等について理解を深め、指導の充実を図ることを目標とします。

予習に必要な時間は3時間、復習に必要な時間は2時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

病弱教育対象児の現状、主な病気、教育の場と教育形態、教育内容・方法等を通して病弱の子どもへの適切な指導、必要な支援について理解を深める。

- ・病弱児を理解する。
- ・病弱教育対象児の現状と主な病気について理解する。
- ・病弱教育の意義と多様な教育の場、教育形態について理解する。
- ・病弱教育に係わる教育内容・方法等基礎的・基本的事項について理解する。
- ・病気等の状態に応じた適切な指導と必要な支援について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

- ・病弱児の理解
- ・病弱教育対象児の変遷と現状、主な病気の概要
- ・病弱教育の意義
- ・病弱児に対する多様な学びの場
- ・病弱教育に係わる教育課程の編成
- ・病弱児の病気の状態に応じた工夫と配慮事項

参考文献

- ①病弱教育における各教科等の指導(ジアース教育新社)
- ②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部、小学部、中学部)／文部科学省(教育出版)
- ③特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)／文部科学省(海文堂出版)
- ④特別支援学校学習指導要領解説 自立活動／文部科学省(教育出版)

評価基準

■レポート評価

- それぞれのレポート課題のキーワードとなる言葉の意味を理解し病弱の子どもと関連させて回答されているかが合否の基準となる。
- 課題に即して、分かりやすく、論理的に述べているか。
- 自分なりの考え方で述べているか。

■科目終了試験評価

- テキスト及びレポート課題を十分理解し、自分なりの視点で、考察しているか。
 - 文章を書く上での基本的なルールに基づいた文章構成となっているか。
- 病弱児教育の意義について理解し、教育上の配慮事項等に基づいた適切な指導と必要な支援について理解することが大切である。

PL4032	視覚障害教育総論		
担当教員	吉田 次男	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『視覚障害教育に携わる方のために4訂版』香川邦生編著(慶応義塾大学出版会)2014 年度～2016 年度

①『視力の弱い子どもの理解と支援』大川原潔ほか編著(教育出版) 2017 年度～

②『視覚障害教育に携わる方のために5訂版』香川邦生編著(慶応義塾大学出版会) 2018 年度～

①②はセット配本

科目概要

視覚障害教育のあゆみ、視覚障害学生への教育、支援および卒業後の就労について学習する。

その他必要である、または期待される主体的学びの概要：

視機能の生理、視覚障害の種類、視覚障害の原因疾患である眼疾患の病態、視機能への影響および視覚障害学者の心理についても学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

視覚障害について、原因である眼疾患も含めて理解できるとともに視覚障害者の心理についても、理解が深まる。初等・中等教育および高等教育までの教育全体の流れの中で視覚障害学生の教材・教具を含めた学習環境の理解、問題点把握とその改善に向けての意識、意欲、実践力を養うことを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ① 視覚器解剖・生理学について基本的な事を理解する。
- ② 視力障害・視野障害の定義や種類について理解する。
- ③ 視力障害の原因となる眼疾患について理解する。
- ④ 視覚障害者の心理について理解する。
- ⑤ 視覚障害学生の生活の質(QOL)について考える。
- ⑥ 視覚障害教育の歴史、現状について学習する。
- ⑦ 教育課程、指導法について学習する。
- ⑧ 視覚障害教育のために教材、教具について学習する。
- ⑨ 卒業後の進路について学習する。
- ⑩ 視覚障害と福祉について学習する。

参考文献

- ①『視覚障害児・者の理解と支援 (新版)』芝田裕一著(北大路書房)
- ②『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援ー通学の学級を担当される先生方のために』
香川邦生編集(教育出版)
- ③『視覚障害と発達』デヴィッド・H・ウォーレン著、山本利和監訳(二瓶社)
- ④『視覚障害教育入門』青柳まゆみ、鳥山由子(ジアース教育新社)
- ⑤『新訂版 新学習指導要領(平成 29 年告示)対応 視覚障害教育入門 Q&A』 全国盲学校長会 (編著),
青木 隆一,神尾 裕治 (監修) (ジアース教育新社)

評価基準

■レポート評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②十分調べているか。参考にした文献があれば文献リストを載せる。
- ③論理的展開になっているか。
- ④正しい日本語で書かれているか。

■科目終了試験評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②論理的展開になっているか。
- ③正しい日本語で書かれているか。

使用テキスト	配本年度
--------	------

『特別支援教育の基礎・基本』新訂版

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2015 年度～2020 年度

『特別支援教育の基礎・基本』2020

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2021 年度～

科目概要

我が国の聴覚障害教育の歴史、教育制度、教育課程、各教科等の配慮事項を知るとともに、聴覚障害教育における言語指導法、手話活用について理解する。教室の中で学習する聴覚障害児童生徒にどのように情報保障したらよいか、聴覚障害児童生徒への具体的な指導場面に対応できる基礎的な指導方法・内容を理解する。

また、聴覚障害の基本的な心理生理病理を理解し、聴覚障害者の実態把握において必要となる聴力検査方法(行動観察法、標準純音聴力検査)、補聴器、人工内耳の基礎的事項を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 聴覚障害者である幼児児童生徒への指導法の知識が身に付く。
2. 聴覚障害者である児童生徒への教科指導における配慮事項の理解が深まる。
3. 学校教育と関係の深い聴覚障害に関する諸検査・アセスメントの知識が身に付く。
4. 聴覚障害があることによる言語発達や日本語習得の課題を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 学習指導要領と教育課程(聴覚障害に関する分野)
2. 聴覚障害児への指導方法(教科指導・自立活動)
3. 聴覚検査法
4. 聞こえとコミュニケーションの発達

参考文献

- ①改訂版「聴覚障害教育の基本と実際」／中野善達・根本匡文(編) 田研出版
- ②難聴児童生徒へのきこえの支援「補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために」 (財)日本学校保健会 (電子図書館で web 公開されている)
- ③特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を的確に把握し、関係箇所の記述を自己の言葉で説明できていること。レポート用紙の約 8 割以上を使用して、基本事項が的確にまとめてあれば合格とする。

■ 科目終了試験評価

テキストや参考文献の内容を踏まえた上で、補聴器や人工内耳を装用している聴覚障害児への情報保障、教科指導上の配慮、聞こえの状況の把握する諸検査等、基本的な事項が理解できていれば合格(60点以上)とする。自己流の解釈や特定の主張しか記載していない場合は、不合格とする。

PL4036	重複・LD 等教育総論
--------	-------------

担当教員	島田 博祐	受講方法	RT
------	-------	------	----

使用テキスト	配本年度
--------	------

①『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著(2019)、北樹出版

②『重度重複障害のある子どもの理解と支援』 大沼直樹編著(2009)、明治図書

①②はセット 2020 年度～

科目概要

(1) LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害の定義、特性を理解し、学習支援、行動支援の基本に関し学ぶ

(2) 発達障害児に係る教育法規に関して学ぶ

(3) 重複障害における実態把握と健康維持、興味喚起、コミュニケーション支援に関し学ぶ

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)の定義、障害特性に関し、理解すること
2. 発達障害に係る学習支援、行動支援の基本的な技法に関し、理解すること
3. 発達障害児に係る教育法規について学ぶ
4. 重複障害における自立活動の一環としての健康維持、身体機能の向上、コミュニケーション支援の方法について学習すること

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義
2. LD、ADHD の特性と対応～機能(ABC)分析
3. 自閉症スペクトラム障害の特性と対応～TEACCH プログラムによる構造化等の踏まえて
4. 学校教育法施行令第 73 条の 21 の改正等、通級の充実策
5. 重度重複障害の実態把握と自立支援
6. 重度重複障害のコミュニケーション支援

参考文献

通常学級での特別支援教育のスタンダード(東京書籍)

発達障害がいるクラスの授業・学級経営の工夫(明治図書)

重度重複障害児の興味への開発法(明治図書)

評価基準

■ レポート評価

- ① 課題内容について説明できているか。
- ② テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ① テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ② 論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。